

そよかぜ

11月に行われた「あったかい言葉がけ運動」で、皆さんに、ピンク色のシャツ型の紙に貼ってもらいました。なぜ、ピンクシャツなのでしょう。皆さんは、「ピンクシャツデー運動」というものを知っていますか。ピンクシャツデー運動は、カナダの学生が起こした行動に由来します。

舞台は2007年、カナダ・ノバスコシア州のハイスクールです。

9年生（中学3年生）の男子生徒がピンク色のポロシャツを着て登校したことをきっかけに、ホモセクシャルだとからかわれ暴行を受け、たえきれずに帰宅してしまいました。その出来事を聞いた上級生である12年生（高校3年生）のデイヴィッド氏とトラヴィス氏。

「いじめなんて、もう、うんざりだ!」「アクションを起こそう!」

そう思ったふたりは、その日の放課後、ディスカウントストアへ行き75枚のピンク色のシャツやタンクトップを買いこみました。そしてその夜、学校のBBS 掲示板やメール等を通じてクラスメートたちに呼びかけました。

「明日、一緒に学校でピンクシャツを着よう」と。

翌朝、ふたりはピンク色のシャツやタンクトップを入れたビニール袋を手に登校しました。学校について校門で配りはじめようとしたふたりの目に映った光景・・・

それはピンクシャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。ピンクシャツが用意できなかった生徒たちは、リストバンドやリボンなど、ピンク色の小物を身につけて登校してきました。頭から爪先まで、全身にピンク色をまとった生徒もいました。

ふたりの意思は一夜のうちに広まっていたのです。

ふたりが呼びかけた人数より遥か多く、数百人も生徒たちがピンクシャツやピンク色のものを身につけて登校してきたことで、その日、学校中がピンク色に染まりました。いじめられた生徒は、ピンク色を身につけた生徒たちであられる学校の様子を見て、肩の荷がおりたような安堵の表情を浮かべていたそうです。以来、その学校でいじめを聞くことはなくなりました。

いじめに対して、学生たちは言葉や暴力ではなく行動で意思表示をしようと立ち上がったのでした。

<https://pink-shirt-day.com/>



不破高校でも、この趣旨に賛同し、
平成27年度から、全校で取り組んでいます。



ピンクシャツデーキャンペーンに参加して8つのチェンジ

「いじめ反対」の意思表示

ピンクシャツデー運動はピンクシャツを着たり、ピンク色のものを身につけたりすることで「いじめ反対」の意思表示をします。言葉や暴力ではなく、シンプルな表現とアクションにより、これまでより、いじめに対する反対の意思表示がしやすくなります。



傍観者からアクションする人へ

欧米の研究において、いじめは傍観者が変われば現状よりずっと減らせると言われています。ピンクシャツデー運動は、傍観者層をアクション（行動）を起こす層へと変える動きにもなります。いじめが起きたとき、そこに傍観者をつくらない、そして自らも傍観者にならないために役立つキャンペーンです。



賛同者という新たな存在

いじめに悩んでいる（悩んでいた）人の中には、ピンクシャツデー賛同者の姿や活動を見て「味方がいる」「仲間がいる」「一人じゃない」と励まされる人たちがいます。世界中にいる賛同者の存在は、今どこかで悩んでいる誰かの支えになれることがあります。

いじめ対策

ひとりでいじめに立ち向かうことは勇気のいることかもしれませんが、ピンクシャツデー運動を通じて、「いじめは悪いこと」「いじめをすることは、かっこわるいこと」というメッセージを伝えていくことで、いじめが存在する環境から、いじめの無い環境へと変えていきます。

いじめ問題への意識向上

いじめ問題を個人や当事者間だけの問題ではなく社会全体の問題として捉え、いじめ問題への関心や意識を高めます。いじめの定義・傍観者になること・無関心ということも含め、あらゆるいじめ問題について考える契機づくりにもなります。

いじめ防止

いじめが発生してしまう前に「どんないじめも許されていない」という発信をすることで、いじめを許さない環境づくりをします。ピンクシャツデー運動を通じ、いじめが発生しにくい雰囲気づくりをすることで、いじめ防止にも役立てられています。

悪しき習慣の打破

いじめは「大人への通過儀礼」「いじめられる側にも問題がある」など、いじめを容認する誤った認識や悪い習慣に対しては黙認せず、いじめに対する関心や意識を高めることで、私たち一人一人が見直し、悪い習慣を改め、より良い環境へと変えていくキャンペーンでもあります。

思いやりある社会づくりへ

ピンクシャツデー運動の広まりに伴い、私たちひとりひとりが互いの違いを受け入れ、他者を尊重し、思いやりを持って他と接する、思いやりある温かな社会づくりに繋がっていくことが期待されています。

